

令和2年度

第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会 議事要旨

1 日時 令和2年7月9日(木) 午前8時30分～午後4時30分

2 会場 弘光舎4階多目的ホール

3 議事

(1) 会の成立宣言

- ・協議会委員29人中26名の出席があり、本会の成立を宣言した。

(2) 西濃地区採択協議会会長挨拶

- ・特異な状況の中でも熱心に調査研究を行った。
- ・西濃の子どもたちにあった教科書を採択できるよう、積極的な意見交換をお願いしたい。

(3) 第1回採択協議会以降の経過報告

- ・研究員による調査研究を、6月15日、6月26日、7月1日の3回実施した。
- ・着眼点に基づいて調査研究した結果を、発行者の特色として意見書にまとめた。

(4) 議案の審議

- ・規約第3条に基づき、採択協議会会長の進行で議事を行った。

第1号議案

- ・『令和3年度使用中学校用教科用図書についての調査研究結果』を報告し、種目ごとに協議及び採択原案を決定した。

国語

<報告>

- ・「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、国語の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・国語は言語活動の要となる教科だと思うが、他教科・他領域の関連として、どのような内容が位置付けられているか。

- ・書くこと・話すことなどの表現の領域について、範例に差はあるか。
- ・GIGAスクール構想の中で、タブレットを使用した学習が想定される。この点について、違いは見られるか。

- 回答：・手引きの部分に「学習の窓」として汎用的な力が示され、さらに巻末の資料編において、他教科・他領域との関連が図られている。また、今後の社会生活や日常生活において必要となる題材を設定し、他領域との関連が図られている。
- ・表現の指導については、東書はあるテーマに従って書き進めていくという位置付けだが、光村はテーマの例示はあるものの、そこから自分で課題を見つけ、書き進めていくという位置付けになっており、優れている。
 - ・東書はQRコードを読むと一覧が出て、そこから自分で選び取って資料にアクセスする。光村は各教材に必要なQRコードが付されていて、直接資料にアクセスができるため、学習しやすいという違いがある。
- 意見：・事前に教育委員に教科書を送付して意見を求めた。意見として、光村の他に、三省堂もよいという声があった。三省堂がよい理由は、興味をそそられるレイアウト、見やすさ、古文の読みやすさ等であった。
- ・東書・三省堂・光村の3冊で、手紙文と電子メール文の教材を見比べると、光村はノート例などの具体もあり、子どもたちにとってわかりやすく、見やすい工夫がなされている箇所が多い。「子どもが使う」といった面で光村がよい。
 - ・光村は本文の字体が見やすい、紙面の質感もよい。この面から見ても光村が優れている。

<採決>

- ・種目「国語」の教科書については、発行者「光村」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

書写

<報告>

- ・「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、書写の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「家庭で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で学習を進めることができる内容や構成」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- 意見：・調査研究の報告に加えて、東書の巻末4Pに「新聞を書く」指導内容が位置付いている。教出82Pと比較すると、明らかに東書の方が親切で丁寧な記載となっており、わかりやすい。その面で比較しても、東書が優れている。

<採決>

- ・種目「書写」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

英語

<報告>

- ・「東書」「開隆堂」「三省堂」「教出」「光村」「啓林館」の6者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、英語の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・現行の教科書と大きく変更されている点について教えてもらいたい。

- ・小学校英語から中学校英語への接続が実現されている場合は、両者でどのような違いがあるか。
- ・教科書のサイズについては東書が大きいですが、その点については考慮されたか。

回答：・表現する場、思考・判断する場が多く設定されたことで、活動量が大幅に増えている点が今までと大きく異なる。東書は単元の途中、単元の終わり、学期の最後と3回アクティビティが位置付いているが、光村は単元の終わり、学期の最後に位置付いている。この点においても東書が優れている。

- ・小学校英語と中学校英語の円滑な接続については、光村は初めの方に多くのページを割いて小学校英語を活用できるようにしているが、東書はそれ以上に1年生の半分の単元で、小学校英語を活用することができるようになっている。既習事項を示す印もあり、教師にも生徒にも分かるようになっている。
- ・東書の教科書のサイズは大きいですが、その分ページ数が少ないため、重量はそれほど変わらない。また紙質が軽くなっている。ページ数が少ないからといって、内容が減っているということもない。

意見：・今の教科書は昔と比べて丁寧できめ細かい。だからこそ教科書発行者の意図を汲んで、指導に反映する力が教員に求められる。また、全ての教科書の細部にわたって調査研究をしていることが伝わってくる。綿密に調査研究がなされている。前回の採択と同じ発行者ではあるが、今回の調査研究の報告を聞いて東書がよいと納得した。

- ・印刷製本では、各者の特色が見られる。その中で東書は教科書の大きさが気になったが、内容を減らすことなく、重量もそんなに増えないということで、東書がよいと納得した。

<採決>

- ・種目「英語」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

数学

<報告>

- ・「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」「数研」「日文」の7者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、数学の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・数学的な見方・考え方を育成する上で、教科書にはどのような発問が位置付いているか。
・家庭で学習する際に配慮されている記載・箇所はあるか。

回答：・第2学年「式の計算」では、大日本17P「間違っている理由を説明しなさい」などに

代表されるような誤答の理由を問う投げかけや、立式の根拠を問う発問、どのような過程で計算したかなど、多様な考え方について思考し、説明することができるような発問がある。

- ・例えば、中1で数を負の数に拡張する場面では、ある数から「負の数を引く」ところで、どの発問も、言葉と式の関連付けが非常に分かりやすく示されており、家庭学習の支えとなっている。また、「もっと学びたい」という生徒には、数学と社会とのつながりを示したコラム等が豊富にあり、家庭学習の充実につながっている。

<採決>

- ・種目「数学」の教科書については、発行者「大日本」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

社会（地理的分野）

<報告>

- ・「東書」「教出」「帝国」「日文」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、社会（地理的分野）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・社会科が苦手な生徒に対して、学習意欲を喚起するような工夫がなされていれば教えてほしい。

回答：・東書ではチームを組んで学び合いができるように配慮されている箇所がある。教出では、写真資料が充実している。帝国では、SDGsの視点からの記載もある。日文は自由研究の欄で生徒の興味を引き付ける工夫がある。どの教科書にも意欲を喚起するような工夫点がある。

意見：・課題を一貫して追究していくという西濃地区の社会科の学び方や、子どもの見方・考え方、学び方を育成する点という調査研究の意図を聞く中で東書が優れていることが非常によく分かった。東書を採択原案にすることに賛成である。

<採決>

- ・種目「社会（地理的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

社会（歴史的分野）

<報告>

- ・「東書」「教出」「帝国」「山川」「日文」「育鵬社」「学び舎」の7者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、社会（歴史的分野）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「家庭で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で学習を進めることができる内容や構成」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・歴史の教科書については、歴史を学ぶ意義を味わわせていく必要がある。また、歴史が現代の我々の生活に結び付いていることを十分に実感させる点も大切だと考える。この点において、教科書の記載はどのようになっているか。

・中学生が主体的に学ぶことを考えたとき、デジタルコンテンツへのアクセスの難易度、量についてはどうか。

回答：・どの教科書にもページ数や内容に差はあるが、巻頭に学び方や学ぶ意義、見方・考え方、現代の生活への結び付きについてきめ細かに説明している。各者、特設コーナーを設けることで興味・関心をもたせ、実社会とのかかわりを具体的に学べるよう工夫されている。例えば、東書は持続可能な社会の実現に向けて、という点で歴史を環境や人権、平和等といった視点で捉えられるようにしたり、巻頭で歴史の大きな流れを把握する学び方を示したりして、現代とのかかわりを実感できるようにしている。帝国では、特設ページの中で、歴史を多面的・多角的に捉えられるよう工夫している。

・デジタルコンテンツについては、例えば、東京書籍では地理や公民と関連できるようになっており、その数は35コンテンツある。日文は、同じくQRコードが位置付いているが、主にワークシート、動画資料等、約30コンテンツある。両者には大きな差がない。他者にはただのリンク集になっているところもある。そういう点では、東書と日文が最も充実し、量も適当である。

質問：・どのように学ぶかという点で、調査項目が適切に設定され、綿密に調査研究がなされている。東京書籍の印刷・製本については配色があまりよくない、余白があまりなく、窮屈な感じがするがどうか。

回答：・その点についても十分に議論は行った。1ページにおける文字数は日文28字、東書は30字であり、大きな差異は見られない。

<採決>

・種目「社会（歴史的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

社会（公民的分野）

<報告>

・「東書」「教出」「帝国」「日文」「自由社」「育鵬社」の6者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、社会（公民的分野）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・東書と教出の違いを、もう少し詳しく教えてほしい。

回答：・東書には、例えばP45のスキルアップのページのように、法律の学習をする際に、その基礎となる内容をきちんと押さえている。また、巻末にも用語解説がなされている。単純に用語を載せるのではなく、その中身についての説明もされている。教育出版にも巻末には解説が位置付いているが、東書のように必要な箇所視点となるような示し方はされておらず、東書の方が優れている。

質問：・着眼点2－(1)と2－(2)の結果について、県の調査研究資料と西濃の結果に差異があるように見えるが、どうなのか。

回答：・県から送付された資料はあくまで参考資料として活用している。西濃地区として改めて綿密な調査研究を行い、各調査項目について精査を行った。その結果は必ずしも県の調査研究の結果と一致するものではないと捉えている。

意見：・公民だけでなく、地域社会や、地理・歴史、日常生活との関連が意識的に図られている点で、調査研究の報告のとおり、東書が優れていると納得した。

<採決>

- ・種目「社会（公民的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

地図

<報告>

- ・「東書」「帝国」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、地図を活用した指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・地理的分野と発行者が異なっても関連性は大丈夫か。

回答：・あくまで「地図」の活用として調査研究を行った。地図は地理の学習だけで活用されるものではなく、歴史、公民にも、国語、外国語、理科、家庭科とも関連し活用されるものである。帝国の地図は、どの教科の学習とも連携が可能である。

<採決>

- ・種目「地図」の教科書については、発行者「帝国」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

理科

<報告>

- ・「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」の5者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、理科の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・GIGAスクール構想の中でICT活用が重視されていくかと思うが、教科書との連携についてはどのようなになっているのか。

- ・「理科」「科学」「サイエンス」と表紙の表記に違いがあるが、意図はあるのか。
- ・東書が大きさが少し変わったが、これについて研究会ではどのような意見がでたのか。

- ・デジタルコンテンツが啓林館では非常に充実していることは分かった。しかし、本来実物を見て、自然を見る目を養わなければならないということについて、配慮されているのか。この点をどのように捉えているか。
- ・東書と啓林館を比較した時、主体的な学びの中でワークシートの活用が挙げられたが、ワークシートがあるから主体的というのは違うと思うがどうか。

回答：・（デジタルコンテンツへのアクセスの比較の実演）

- ・東書は二次元コードにアクセスすると、コンテンツの一覧が出る。この中から該当箇所を探し、さらにアクセスをしてアニメーションを見る。啓林館は、二次元コードから直接アニメーションにアクセスできるようになっている。教科書と一体になって手軽に活用でき、誰もが操作をしやすいという点で啓林館が優れている。
- ・「理科」「科学」「サイエンス」の表記が発行者によって異なることが内容に影響しているかについては、そのようなことはなく、大差はない。
- ・形に関しては、東書の教科書のサイズは、タブレットの形状を参考に作られている。啓林館は横に広くワイドであり、写真などを比較的大きく表現できる。また、バランスがよく開きやすい。
- ・コンテンツについては、特に天体や原子・分子のモデルなど、絵や写真でしか見ることができないものや、実際に教室で見ることが困難なものを、美しい映像やアニメーションで容易に示すことができるよさがあり、そういった面で活用できる。
- ・ワークシートがあることで、子どもたちだけで学習できるよう、探究の流れが厳選され明確になっている。「どの生徒も」「どの先生も」追究ができるという点でよさがある。

質問：・探Qシートがついているから、デジタルコンテンツの数が多いから、という極めて分かりやすい理由だが、デジタルコンテンツが多い、ということは授業をする場合、どういう内容なのかを教師が全部見なければならない、それだけ教職員の負担が増える。逆に数が少ない、ということはそれだけ精選されているかもしれない。そのあたり、実際にデジタルコンテンツを比較した結果、質や内容について教えていただきたい。

回答：・教材研究の際、どんな内容のコンテンツかすぐに見られるのは啓林館。コンテンツがあること、すぐに見られるということは、生徒の興味関心を引き付ける面で非常に意味がある。内容や質についても、充実しているが、必要に応じて活用できるとよい。

意見：・啓林館はコンテンツの充実など、非常に丁寧できめ細かである。したがって、今回啓林館を採択原案とすることに賛成である。しかし、親切すぎる・きめ細かすぎるがかえって生徒主体となった学びや生徒の成長を阻害しかねないということも考えていかなければならない。

<採決>

- ・種目「理科」の教科書については、発行者「啓林館」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

音楽（一般）

<報告>

- ・「教出」「教芸」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、音楽（一般）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・調査項目1・2の報告の中で、創作・鑑賞の比較が多かったと思うが、歌唱について違いはあるか。

- ・郷土の伝統音楽は各発行者でどんなものが挙げられていて、両者を比較した中でなぜ教芸が素晴らしいと判断したのか。

回答：・教材選択の段階で生徒が身近に関心をもちやすい曲、例えば教芸では「君をのせて」等、子どもたちも知っており、合唱としてきちんと構成されている曲目を多数載せているのが特徴である。

- ・郷土の伝統音楽については、教芸では高山屋台祭り、教出では郡上おどりが取り上げられている。教芸では高山屋台まつりを学習することで文楽などにつながっていくという面ではよさがある。

意見：・音楽は時として、上手く歌えるようになればよいと捉えられがちだが、音楽を形作る要素とかかわらせて豊かな情操教育をしていくことが大切。説明を聞くと教芸については、その系統が分かりやすく示されていることがよく分かった。鑑賞についてもただ聞くだけでなく、仲間と意見を交わしながらワークシートにまとめることができるようになっていく点はよい。

質問：・中学校の締めくくりの合唱曲というと「大地讃頌」が挙げられると思うが、その扱いは両者で差異は見られるか。

回答：・楽譜についてフォントがUDフォントかどうかという程度でどちらも大差ないが、カンタータ「土の歌」の終曲に関する説明があり、中学校音楽の学習を締めくくるにあたってどのように混成四部合唱をするとよいかを示唆されている点で教芸が優れている。

<採決>

- ・種目「音楽（一般）」の教科書については、発行者「教芸」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

音楽（器楽合奏）

<報告>

- ・「教出」「教芸」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、音楽（器楽合奏）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

意見：・器楽に関しても、上手に演奏できればよいというわけではなく、音楽を通して豊かな情操を育てたい。音楽の領域として、「表現」「器楽」「創作」「鑑賞」と4つあるが、それらが関連付いているとより力がついていく。教芸は一般の曲とつながっていたり、子どもがよく知っている曲が多く取り上げたりすることによって、楽しんで力を付けていける。また、仲間との協働についても、多様な考え方を取り入れながらという点で、新学習指導要領の趣旨が明確に表れている。家庭学習でも、例えば琴の学習では、様々なアングルの写真があり、わかりやすかった。音楽（器楽合奏）についても教芸を原案とすることに賛成したい。

<採決>

- ・種目「音楽（器楽合奏）」の教科書については、発行者「教芸」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

美術

<報告>

- ・「開隆堂」「光村」「日文」の3者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、美術の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・開隆堂は1年生と、2・3年生で2冊、日文は1年生と、2・3年生（上下）で3冊と分かれている。その違いに何か意味はあるのか。

回答：・送付された見本本の中で唯一3分冊となっているのが日文。日文は各学年の発達の段階を細かに分けて、中学校の2年生と3年生で学習すべき題材などをより丁寧に提示して学習ができるようにしている。そういった点で優れている。

意見：・見出しのキャッチフレーズ・資料の豊富さ、色彩効果、3分冊等、どの観点から見ても日文が優れている。

<採決>

- ・種目「美術」の教科書については、発行者「日文」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

保健体育

<報告>

- ・「東書」「大日本」「大修館」「学研」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、保健体育の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- 質問：・デジタルコンテンツの活用について、動画の教については詳細な説明があったが、動画以外のICT活用にはどのようなものがあるか。
- ・がん教育の扱いについて、どの発行者も扱われているか。どのような差異が見られるか。
- 回答：・両者とも動画以外にもホームページへのリンクや資料ページがある。動画を特に取り上げたのは、自分でも見ながら学習ができるという点から取り上げた。動画については数に大きな差異が見られた。
- ・新学習指導要領では、がん教育について、生活習慣病とは別に1時間設けられることになっている。その点ではどの発行者でも取り扱われている。医療従事者やがん経験者の話を取り上げながら命の学習を続けていこうという歩みを提示しているのは学研1者だが、知識を身に付けるという面ではどの発行者も同様の扱いがあると考えている。
- 意見：・それぞれの発行者のよさについて説明をもらったが、子どもの学びへの対応の違いや、学習の扱いやすさ等について、調査研究の報告に非常に納得ができるものだったので、提案どおり東書がよい。

<採決>

- ・種目「保健体育」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

技術・家庭（技術分野）

<報告>

- ・「東書」「教図」「開隆堂」の3者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、技術・家庭（技術分野）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

- 質問：・プログラミング学習について各発行者について差異はあるのか。
- ・デジタルコンテンツの扱いについて、アクセスの仕方など、各発行者で差異はあるのか。
- 回答：・新学習指導要領で小学校のプログラミング学習で扱われている「スクラッチ」に代表されるビジュアル型プログラミングアプリケーションを使用している点は、どの発行者も差異はないが、学習していく中での言語例や発展性・難易度は、各発行者で異なっている。その中で東書が、双方向・問題解決型の学習の充実といった面でより生徒の実態に合っている。
- ・教図、開隆堂はそれぞれの学習場面でQRコードが付されているのに対し、東書は単元の初めにDマークがあり、そこから学習するコンテンツが全て見られるようになっている。そのため系統的に学ぶことを理解しながら学習を進めることができる。他教科と比べて、技術の授業は週に1時間程度なので、即時的なアクセスというよりは、一覧のページにアクセスし、前の時間とのつながりを確かめながら学習できるため、学習のつながりが分かるよさがある。

意見：・「深い学び」がキーワードとして説明があったが、問題解決カードの説明から考えても、東書が優れているという説明に納得できた。

<採決>

- ・種目「技術・家庭（技術分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

技術・家庭（家庭分野）

<報告>

- ・「東書」「教図」「開隆堂」の3者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、技術・家庭（家庭分野）の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

質問：・発行者間の差異について、着眼点以外にはあるか。

回答：・東書は教科書上部に爪見出しがあり、領域ごとに色で分かれている。生徒が振り返りたい、立ち戻りたいときにすぐに目的とするページを探することができる。活用しやすいという点で東書は優れている。

意見：・最近の教科書は非常に丁寧である。調理だけではなく、生活、地域とのかかわり等も丁寧に記載されていて、PTAの母親委員会の行事など、様々な場面でも活用できる。

<採決>

- ・種目「技術・家庭（家庭分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

道徳

<報告>

- ・「東書」「教出」「光村」「日文」「学研」「廣あかつき」「日科」の7者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、道徳の指導で重点とする着眼点（「思考力、判断力、表現力等を育む、言語活動や問題解決的な学習、体験的な学習」、「学習意欲を喚起したり、学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感したりすることができる題材や素材、資料等」）を中心に各発行者の特徴を報告した。

<協議>

意見：・考え、議論する道徳の実現、葛藤をどう乗り越えていくか、また、いじめの問題をどう扱っていくかという点で、多様な観点や資料が位置付けられている東書が優れているという説明に納得できた。特にいじめについては、複数教材を使っている、読み物以外の多様な観点から考えさせようとする、という研究結果は、重要な観点である。

また東書については、心情円やホワイトボードがあることも特色の一つである。心情の「見える化」が最近特に重要視されている。しかし、あればよいのではなくどう活用していくか、どう扱うか踏み込んで検討することが大切である。

<採決>

- ・種目「道徳」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決した。

第2号議案

- ・『令和3年度使用小学校用教科用図書についての調査研究結果』を報告し、協議及び採択原案を決定した。
- ・全員一致で案どおり可決した。

第3号議案

- ・「附則9条本」の扱いについて事務局から説明した。
- ・全員一致で承認した。

(5) 連絡

- ・各市町（組合）教育委員会において、8月14日までに議決をとることを依頼した。
- ・議決が調わない場合は、規約等に基づき再協議となることを確認した。
- ・8月31日までは、一切を非公開とする。議決の内容について他言しないよう依頼した。
- ・9月1日以降、公開請求に応じて協議会委員の名簿等が公開となることについて了承を得た。
- ・各市町（組合）教育委員会において、情報公開の準備を進めることを確認した。

令和2年度第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会の議事録は上記のとおりです。

岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会

会長 山本 譲

副会長 細江 敦